

令和元年度 鹿児島県車いすバスケットボール
審判講習会
報告書



鹿児島県バスケットボール協会
審判委員会

令和元年度第3回鹿児島県車いすバスケットボール審判講習会 開催要項

【目的】 「第20回全国障害者スポーツ大会 燃ゆる感動かごしま大会」に向けて、県内審判員の課題をクリアし資質向上を図ると共に、今後の資格取得のために日本連盟本部の方より講習・指導を受ける

【主催】 鹿児島県バスケットボール協会 審判委員会

【協力】 日本車いすバスケットボール連盟 規則・審判部

【期日】 令和2年2月1日（土） ～ 2日（日）

【会場及び講習会日程】

2月1日（土）

いちき串木野市総合体育館第1会議室

いちき串木野市生福 5298 番地 3 TEL0996-32-8588

13:00～ 開講式（12:45～ 受付）

13:30～ 講義

17:00～ 終了

2月2日（日）

串木野市B&G海洋センター体育館

いちき串木野市野元 20957 番地 1 TEL0996-32-8994

9:00～ 実技研修（8:45～ 受付、試合形式）

12:00～ 昼食

13:00～ 実技研修（12:45～ 受付、試合形式）

16:30～ 閉講式（17:00 解散）

【講師】 門川 浩人 氏

（日本車いすバスケットボール連盟 T級インストラクター）

【講習生】 鹿児島県及び近県審判員

令和元年度第3回鹿児島県車いすバスケットボール審判講習会 報告書

九州ブロック 氏名 三木 大助 .

日 程 : 2020年 2月 1日(土) ~ 2日(日)
場 所 : いちき串木野市総合体育館 / 串木野市 B&G 海洋センター体育館
講 師 : 門川 浩人 氏 (T級インストラクター)
参 加 者 : 三木 大助 (鹿児島 A1)、初瀬 真由子 (鹿児島 A1)、 堤 宏二 (福岡 B)、林 真理子 (熊本 B)、岩下 さおり (鹿児島 B1)、 川邊 静香 (鹿児島 B1)、坂元 孝浩 (鹿児島 C)、鈴木 恵美 (鹿児島 C)、 鳥羽瀬 暁天 (鹿児島 C)、津崎 菜々 (鹿児島 C)、勇 香保 (鹿児島 未)
敬称略

スケジュール	
2月1日(土) 場所 : いちき串木野市総合体育館	
13:00~13:10	開講式
13:10~14:20	講義 ①
14:20~14:30	休憩
14:30~15:40	講義 ②
15:40~15:50	休憩
15:50~17:00	講義 ③
2月2日(日) 場所 : 串木野市 B&G 海洋センター体育館	
9:30~10:55	実技① 福岡ライジングゼファー vs Naughty 【前半】CC (初瀬)、U1 (川邊)、U2 (鳥羽瀬) 【後半】CC (三木)、U1 (林)、U2 (坂元)
10:55~12:20	実技② Naughty vs 薩摩ぼっけもん 【前半】CC (堤)、U1 (岩下)、U2 (勇) 【後半】CC (林)、U1 (坂元)、U2 (鳥羽瀬)
12:20~13:20	昼食
13:20~14:45	実技③ 薩摩ぼっけもん vs 福岡ライジングゼファー 【前半】CC (初瀬)、U1 (鈴木)、U2 (鳥羽瀬) 【後半】CC (堤)、U1 (川邊)、U2 (勇)
14:45~16:10	実技④ 福岡ライジングゼファー vs 鹿児島 【前半】CC (三木)、U1 (坂元)、U2 (鈴木) 【後半】CC (林)、U1 (岩下)、U2 (川邊)
16:10~16:30	閉講式

報告事項（講義の内容、講習会形式等）

2月1日（土）

【講義①】 接触の原則

車椅子を上から見ると「円」や「円錐」 → 接触する部分のごく一部、面ではなく点

接触する部分（POC）：車椅子のどこどこが接触しているかを知ることが重要

車椅子接触の基本原則 進路の幅 → シートの両側から進む方向（PATH）、サイドレールの幅に等しい

正当なディフェンスには大きく2つの状況がある

1 コンバージングの状況：進路の重なり

（1）ボールを持っているプレイヤーに対する防御

① 相手の進路（PATH）をカバーする

進路をカバーするとは、車椅子を「置き」、「ふさぐ」ことである。

進路をカバーしたら止まる必要はない、下がって進路をカバーしても良い、進路を通り過ぎてても良い

車椅子がどの方向を向いているかは重要ではない（FIBAとの違い）

進路をカバーしても、相手に対する角度が鈍角であれば、正面衝突が適用される。

→ 相手と接触を起こす前に止まっている必要がある

② 相手に避けられるだけの時間と距離を与える

ゆっくりであれば車椅子1車分、速ければ車椅子2車分、どんなに速くても2車分以上にはならない

ブレーキングエリア（1車分～2車分）の先に車椅子を置く、進路をカバーする必要はない

（2）ボールを持っていないプレイヤーに対する防御

相手より先にその場所に着けば良い、どちらが先に着いたかは、ハンドリムの前後で判断する

ただし、相手の進路に対し、1車以上の間隔がない状態から動き始めた場合は、進路をカバーするか、

時間と距離を与えなければいけない → 先に位置を占めたからといって何をしていたわけではない

ボールキャリアかどうかで、触れ合いの責任が変わるケースがあるので注意が必要

2 クロッシング・ザ・パスの状況：進路の横断（交わり）

進路を横断するディフェンスの場合、ボールをコントロールしているかどうかは関係ない

2台の間が1車無い状態で並行に進んでいる（パラレルの状況） → 進路の横断

アクセルが相手のバンパーより前に出たか？

上記を踏まえて、映像を確認

【CASE1】ドライブの始まり、ディフェンスとの間隔1車分以上 → ボールキャリア → コンバージングの状況

→ 正当なディフェンスとは？ → ブロッキングやチャージングが予想される

※ コンタクトが起こった瞬間のオフenseのアクションに対するディフェンスのリアクションに注目

アクセルの前 → 外側に振られる

アクセルの後ろ → 内側に振られる

【CASE1】ドライブの始まり、ディフェンスと1車分以上の間隔がない → 間隔は変わらない（パラレルドライブ）

→ ボールキャリアかは関係ない → クロッシングザパスが起こりうる → アクセルの位置に注目

【講義②】メカニクス

IOT

- ① ステーションリ&ディスタンス : 止まって笛を吹く、それまでに動く
- ② レフリー・ディフェンス : ディフェンスを中心に見る (フォーカス)
- ③ 45度とオープンアングル : アウトサイドインの見方
- ④ ステイ・ウィズ・ザ・プレイ : プレイ全体を最後まで見る
- ⑤ コール・ザ・オヴィアス : 明らかなもの、「インパクト」のあるものを「逃げずに」判定

ポジショニング

① オリジナルポジション

L : 45度オープンアングル、レフリーディフェンス、アウトサイドイン

C : 身体の向きは平行、ハイセンター、ローセンターの使い分け、オープンアングル

T : 45度オープンアングル、レフリーディフェンス、アウトサイドイン、ビッグピクチャー (高くなりすぎない)

② ローテーション

ボールがスプリットラインを超えて逆サイドへ移動 → Lはクローズダウンポジションへ移動

逆サイドでボールがポーズ → ローテーション開始 スキャンザペイント、ネクストマッチアップ

ペイント付近でプレイが行われている時は行かない方がいい

Tは直ちにローテーション開始、Lの背中を守る、ボールプレイをチェックアウト

Cはボールプレイにチェックイン、ステイウィズザプレイ、ワンプレイ終えてからTへ移動

③ トランジションへの対応

リードのオリジナルポジションに入る時に考えること

ボールがセンターサイドを進んでくる場合 → 直接クローズダウンポジションへ

ボールがリードサイドを進んでくる場合 → オリジナルポジションへ

ボールがチューブの中を進んでくる場合 → どちらに位置取るか考える。。。

Tカップディフェンスに対しては、L、Cがいち早くオリジナルポジションに位置取る

プレスディフェンスへの対応 → センターはT、Lどちらとボクシングインするか (多数決の原理)

ボールのポジションは「原則」考慮する必要はない

CがTとのボクシングインを選択する場合、Lは速攻の1対1を責任を持ってオブザーブする

バックピックがある時 → Tはマッチアップに遠すぎるとフロントコートに入るのが遅れるので注意する

Cは3POではなく、Lとの2POを選択する、オリジナルポジションに早くいきすぎない

【講義③】良い審判とは

「頭」、「足」、「心」、「目」 → 4つ揃って良い審判となる

「頭」= 知識

車椅子の技術の理解 こいでいるのか、止まろうとしているのか? → プレイヤーの姿勢を見る

ルールについては誰よりも知っている自信を持つ ゲームに対する感性 プレイヤーやチームの状況は?

「足」= 体力

一試合走りきる体力、コンディショニング → 体力がないと集中力が落ちる 走り方、スタイル、服装など

「心」= 自信に基づいたプレッシャーに負けない強い意志

平等性、協調性、友好性 自分をコントロールできる精神的な安定感 常に向上心がある ユーモアな心

「目」= 情報を処理する技術 見るところをコントロールできる

×ボールを中心に見る、視野の中心にボールがある → ○アクティブなところに目がいく

何を見るかの観察力 → ディフェンスを見る アクティブなプレイがどこにあるか探す（自分のプライマリ）

視野の取り方を工夫する あまりスペースを見に行きすぎない

車椅子と手 接触は1か所だけ 審判としての見方 TO やベンチに対して気を配る

3PO の再確認

リード : 選手より先に行く プレイヤーがどう来るのか早く読み取る シュートの時は動かず吹く

ショットのボールを追わない エンドラインのコートバイオレーションに注意、押されて出たケースなど

トレイル : クロック、ショットクロックの管理、マジックタイム ショットやパス、ボールを追わずにディフェンスを見る

センター : 一番要として重要なレフリー（スロトル） ハーフコートのセンターの見方 オフボールのプレイ

オールコートは多数決の原則 2PO 時のボクシングイン

判定の一貫性

プレッシャーがある時こそ、ちゃんと見る努力をする プレッシャーが変われば状況も変わる→デリケートな部分

同じプレイ、同じプレッシャー、同じ現象について、同じように判定する

ゲームのテンポとリズム

審判がリズムを崩してはいけない 軽いファウルを吹く → インパクトが吹けない NG!

吹かずに終わることがベスト 良いゲームは時間が短い

ファウルコールに時間をかける タイムアウト後になかなかゲームを再開しない クロックなどのミスを目早に修正

アクシデントが起こったときの対応 TO のところに行きすぎない → プレイヤー、審判がリズムを崩す要因

動くこと → 最後まで見届けられる位置に行く アングルが変わる、最後の一步が大事

目的を持った動き ブロッキング、チャージングをしっかりと見極める良い位置

仕返しファウル 車椅子はどんなところでもファウルが起こる どうでもいいファウルを吹かない

2 4 秒、8 秒オーバータイム、バックパス 成立の条件は？ コーチのテクニカルファウルが吹けるか

良い審判とは

目標を設定する イメージを持つ 常にコートに立つ準備をする コートに立てる喜び

相手審判に良いコミュニケーションをとる 信頼される努力を惜しまない

判定基準を目早に確立する 集中力を持つ

「良い審判は細かいところまで気を払い、大胆に取り上げる」

評価の4項目 4項目×5点 = 20点満点

ゲームコントロール

メカニクス

ガイドライン・プレイコーリング

◎プレゼンテーション

C 級 : 7 点、B 級 : 11 点 → 4 項目でスタンダード (3 点) を目指す

2月2日(日)

【実技①】 福岡ライジングゼファ― vs Naughty

(門川氏より)

全体的には大きな問題はないが、センターの位置取りが常に低すぎる。プレイの展開やプレイヤーのフロアバランスによっては、ハイセンターに位置取りした方がより多くのプレイをとらえることができる。常にオリジナルセンターの位置にとどまるのではなく、状況に応じてポジションアジャストする必要がある。

(自分で振り返って)

車いすのセンターのオリジナルポジションは健常より低い位置であるが、いくつか自分の中でもセンター側にボールが運ばれるケースや、センター側にカットやドライブのプレイヤーが向かってくるケースに対して、チェックインがしにくい場面があったので、状況に応じてローセンターとハイセンターを使い分ける必要があった。また、センター側でのドライブはセンターが低すぎるとドライブの最後に対してアングルが取れないことがあるので注意が必要だと感じた。

【実技④】 福岡ライジングゼファ― vs 鹿児島

(門川氏より)

センターライン付近にていくつか際どいケースがあった。ディフェンスプレイヤーがインターセプトしたボールをオフェンスプレイヤーがリカバリーする時に、ディフェンスプレイヤーと接触し、結果的にハーフラインを越えてバックコートに入ってしまった。

ディフェンスプレイヤーのインターセプト時にコントロールがあったのか、オフェンスプレイヤーがリカバリーした時のディフェンスプレイヤーの接触はファウルではなかったのか、リカバリーしてバックコートに戻ってしまったプレイはバックコートバイオレーションではなかったのか、、、一つ一つの現象について判定を積み重ねていく必要がある。

(自分で振り返って)

映像で振り返ってみると、ディフェンスプレイヤーのインターセプトはコントロールとも取れるプレイであったが、オンザコートでは、通常のカットボールと見なしていたので、オフェンスプレイヤーがリカバリーした際にバックコートに戻ってしまったプレイはバックコートバイオレーションとして処理する必要があった。

また、途中のインターセプトをコントロールと見なすのであれば、ショットクロックもリセットになるので、際どいケースがあった時のショットクロックについても注意を払わないといけないと感じた。

講習会を終えての感想と今後の抱負等

今回の講習会を受講して、まずは個人として、ルールや接触の原則についてまだ理解が足りないところや、オンザコートでの課題が明確に見えてきた。特に接触の原則におけるオフenseのアクションの後のディフェンスのリアクションについて、車いすのどこにあたったからどうなるという車いすの原理の理解がまだ不足していた。今後はその浮き彫りになった課題をクリアしていき、審判技術の向上に努めていきたい。

そして、鹿児島県車いす連盟の審判長として、講師や県内審判員に対しての準備がまだまだ足りていないところがあり、多々不手際があったと思います。何とか県内審判員の協力をもらいながら、講習会を終えることができましたが、今後大きな大会を迎えるにあたって、審判長として、組織として反省点を見直し、鹿児島県一丸となって、目前に迫った全国大会に向けて準備を進めていきます。

鹿児島県審判員全体としては、本部の方の講義や実技指導を始めて受ける審判員も多く、かなり刺激を受けて前向きに取り組む姿勢が見られたので、この勢いをしっかりと今後につなげ、全体のレベルアップを図っていきたいと思います。

最後に今回の講習会を開催するにあたって、ご多忙の中、遠く鹿児島の地までお越しいただいた講師の門川様、講師派遣に際して講師派遣の準備を進めていただいた日本車いすバスケットボール連盟の菅野部長、強化委員会の加藤様、実技講習に協力いただいたチーム関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

皆様のご協力のお陰で実りある講習会となりました。本当にありがとうございました。

令和元年度第3回鹿児島県車いすバスケットボール審判講習会 報告書

九州ブロック 氏名 初瀬 真由子

大会日程、スケジュールについては同様のため省略致します。

報告事項（講義の内容、講習会形式等）

2月1日（土）

【講義】

車椅子の特徴→車椅子は案外丸いので、当たるところは限られてくる。

ランニングバスケは点や面、線での接触が起こるが、車椅子は点での接触が起こる。

どこが POC(=接触する部分)なのかをしっかりと把握する必要がある。

■ 接触の基本原則 ■

・判定の際には path の定義を理解しておく必要がある。車椅子の幅ではなく、シートの幅。

・車椅子の接触の2ケース

(1)コンバージングの状況（進路の重なり）

A)ボールを持っているプレイヤーの防御

→ path をカバーする もしくは 時間と距離を与える

選手から「DF が後ろに下がってるよ！」と主張されることがあるが、車椅子バスケでは、プレイヤーは前後どちらに進んでも構わない。

B)ボールを持っていないプレイヤーの防御

→ どちらがそこに先に着いたか

(2)crossing the path（進路の横断）

ボールを持っているか否かに関わらず、車軸を相手の前方に出したからでないと、進路の横断は NG

■ 講習会のテーマ ■

・ポジショニング

(1)オリジナルポジション

(2)ローテーション

(3)トランジション

・判定

(1)接触の原則

(2)ガイドライン（プレイコーリング）

IOT

(1)ステーションナリー & ディスタンス

(2)レフェリー・ディフェンス

(3)45度とオープンアングル

(4)stay with the play

(5)call the obvious (明らかなもの、特に「インパクト」のあるものに「逃げず」に判定を下す)

ポジショニング

(1)オリジナルポジション

(2)ローテーション

A)ボールがポーズする。

※スプリットラインを超える前にクイックショット・ドライブがあったらバックペダル

(3)トランジション

プレスディフェンスへの対応→多数決の原則

プレスディフェンスの時、センターは多数決の原則に従い、トレイルとボクシングインしてみる。ボールのポジションは「原則」考慮する必要はない。

■ 良い審判になるには ■

(1)頭・・・バスケットの知識、プレーの知識、ルールの知識、ゲームに対する感性・情報

(2)足・・・体力、コンディショニング、フィジカル・フィットネス、スタイル・走り方・止まり方

※体力がなければ集中力を維持できない

※スタイルに関して、服装や髪型含む

(3)心・・・自信に基づいたプレッシャーに勝つ強い意志、平等性を持つ、協調性・友好性がある、

自分をコントロールできる精神的な安定性、常に向上心がある、ユーモアな心がある

(4)眼・・・見たものに対して適切な処理をする。見たことをコントロールできる。

「何を見るか」という観察力。

→怖いかもしれないが「常にDFを見る」ということも挑戦！

アクティブなプレーがどこにあるか。

審判としての視野を理解しているか。

→コートに立った瞬間視野がスポットになってしまうのはNG

TO やベンチに気を配る。

(5)目標を設定する！

・どんな審判になりたいか。

・審判ができることに喜びを感じる。コートに立てる喜び。

・相手審判と良いコミュニケーションが取れる。

・信頼されるために努力する

・判定基準は早く出す

良い審判は細かいところまで気を使い、大胆に判定する。

悪い審判は大体で大雑把

■審査について■

(1)ゲームコントロール (2)メカニクス (3)ガイドライン (4)プレゼンテーション

C 級・・・7 点以上合格 B 級・・・11 点以上合格

3 点→いくつか課題は見られるが問題はない

2 点→問題や課題が多い。

2月2日(日)

【実技講習】

福岡ライジングゼファ―、ぼっけもん、ナフティの3チームでの練習ゲームを用いて実践させていただいた。ハーフゲーム毎にクレーを交代し、その都度門川氏にご指導頂いた。

・福岡ライジングゼファ― vs ナフティ

ビッグインパクトのプレーに対しての反応がない。状況を把握出来た上でノーコールにしているのか、それとも判定ができなかったのかが見えて分からないので、インパクトのあるものに対してはしっかりとした判定をしていく。

またトレールからニューリードに入る際に、小さくジャンプしてから走り出す癖がある。視野が大きくブレてしまうため、そのまま走り出した方がいい。

CCとして、ゲーム中に何が起きているのか全体を把握しておく必要がある。自分のエリアだけでいっぱいになるのではなく、もう少し余裕を持って挑みたい。

・ぼっけもん vs 福岡ライジングゼファ―

大きなミス等なく通すことが出来たが、前回のゲームで指摘していただいた走り方等が、できる時間帯と出来ない時間帯とがあることを自覚した。集中力を保って、アドバイスいただいたことは、すぐに改善し続けられるように努めたい。

講習会を終えての感想と今後の抱負等

接触の原則を頭では理解していてもコート上で発揮できないことが、最近参加させて頂く大会で続いていた。もう一度基本を再確認できたことはもとより、「良い審判になるために」というテーマでお話を伺えたことが、これまでなかなか解決できなかった内容や達成できていない目標をクリアにできるヒントとなると感じれたことが、とても嬉しかった。机上だけでなく実際にコート上での判定の精度を上げていくために、頭でっかちにならずに、心身共に整えた状態で、今後の大会に挑みたい。

今回遠くからお越しくださった門川氏をはじめ、本講習会に参加させていただけたことに心から感謝いたします。ありがとうございました。鹿児島全スポが終わっても、審判活動はもちろん続けていきますが、まずは鹿児島でのビッグイベントでこれまでの成果が発揮できるように、1つ1つ丁寧に目の前の課題をクリアにし積み重ねていきたいです。

大会日程、スケジュールについては同様のため省略致します。

報告事項（講義の内容、講習会形式等）

2月1日（土）

【講義①】 接触の原則

接触する部分（Point Of Contact）：車椅子のどこどこが接触しているかを知ることが重要

正当なディフェンスには大きく2つの状況がある

1 コンバージングの状況：進路の重なり

（1）ボールを持っているプレイヤーに対する防御

① 相手の進路（PATH）をカバーする

進路をカバーしたら止まる必要はない、下がって進路をカバーしても良い、進路を通り過ぎても良い
進路をカバーしても、相手に対する角度が鈍角であれば、正面衝突が適用される。

② 相手に避けられるだけの時間と距離を与える

ゆっくりであれば車椅子1車分、速ければ車椅子2車分、どんなに速くても2車分以上にはならない
ブレーキングエリア（1車分～2車分）の先に車椅子を置く、進路をカバーする必要はない

（2）ボールを持っていないプレイヤーに対する防御

相手より先にその場所に着けば良い、どちらが先に着いたかは、ハンドリムの前後で判断する

ただし、相手の進路に対し、1車以上の間隔がない状態から動き始めた場合は、進路をカバーするか、
時間と距離を与えなければいけない

2 クロッシング・ザ・パスの状況：進路の横断（交わり）

進路を横断するディフェンスの場合、ボールをコントロールしているかどうかは関係ない

2台の間が1車無い状態で並行に進んでいる（パラレルの状況）→ 進路の横断

【講義②】 メカニクス

IOT

① ステーショナリ&ディスタンス：止まって笛を吹く、それまでに動く

② レフリー・ディフェンス：ディフェンスを中心に見る（フォーカス）

③ 45度とオープンアングル：アウトサイドインの見方

④ ステイ・ウィズ・ザ・プレイ：プレイ全体を最後まで見る

⑤ コール・ザ・オヴィアス：明らかなもの、「インパクト」のあるものを「逃げずに」判定

ポジショニング

① オリジナルポジション

L : 45度オープンアングル、レフリーディフェンス、アウトサイドイン

C : 身体の向きは平行、ハイセンター、ローセンターの使い分け、オープンアングル

T : 45度オープンアングル、レフリーディフェンス、アウトサイドイン、ビッグピックチャー（高くなりすぎない）

② ローテーション

ボールがスプリットラインを超えて逆サイドへ移動 → Lはクローズダウンポジションへ移動

逆サイドでボールがポーズ → ローテーション開始 スキャンザペイント、ネクストマッチアップ

ペイント付近でプレイが行われている時は行かない方がいい

Tは直ちにローテーション開始、Lの背中を守る、ボールプレイをチェックアウト

Cはボールプレイにチェックイン、ステイウィズザプレイ、ワンプレイ終えてからTへ移動

③ トランジションへの対応

リードのオリジナルポジションに入る時に考えること

ボールがセンターサイドを進んでくる場合 → 直接クローズダウンポジションへ

ボールがリードサイドを進んでくる場合 → オリジナルポジションへ

ボールがチューブの中を進んでくる場合 → どちらに位置取るか考える

Tカップディフェンスに対しては、L、Cがいち早くオリジナルポジションに位置取る

プレスディフェンスへの対応 → センターはT、Lどちらとボクシングインするか（多数決の原理）

ボールのポジションは「原則」考慮する必要はない

CがTとのボクシングインを選択する場合、Lは速攻の1対1を責任を持ってオブザーブする

バックピックがある時 → Tはマッチアップに遠すぎるとフロントコートに入るのが遅れるので注意する

Cは3POではなく、Lとの2POを選択する、オリジナルポジションに早くいきすぎない

【講義③】 良い審判とは

「頭」、「足」、「心」、「目」 → 4つ揃って良い審判となれる

「頭」= 知識

車椅子の技術の理解 こいでいるのか、止まろうとしているのか？ → プレイヤーの姿勢を見る

ルールについては誰よりも知っている自信を持つ ゲームに対する感性 プレイヤーやチームの状況は？

「足」= 体力

1試合走りきる体力、コンディショニング → 体力がないと集中力が落ちる 走り方、スタイル、服装など

「心」= 自信に基づいたプレッシャーに負けない強い意志

平等性、協調性、友好性 自分をコントロールできる精神的な安定感 常に向上心がある ユーモアな心

「目」= 情報を処理する技術 見るところをコントロールできる

×ボールを中心に見る、視野の中心にボールがある → ○アクティブなところに目がいく

何を見るかの観察力 → ディフェンスを見る アクティブなプレイがどこにあるか探す（自分のプライマリ）

視野の取り方を工夫する あまりスペースを見に行きすぎない

車椅子と手 接触は1か所だけ 審判としての見方 TOやベンチに対して気を配る

3PO の再確認

リード : 選手より先に行く プレイヤーがどう来るのか早く読み取る シュートの時は動かず吹く
ショットのボールを追わない エンドラインのコートバイオレーションに注意、押されて出たケースなど
トレイル : クロック、ショットクロックの管理、マジックタイム ショットやパス、ボールを追わずにディフェンスを見る
センター : 一番要として重要なレフリー (スロツトル) ハーフコート of センターの見方 オフボールのプレイ
オールコートは多数決の原則 2PO 時のボクシングイン

判定の一貫性

ゲームのテンポとリズム

良い審判とは

「良い審判は細かいところまで気を払い、大胆に取り上げる」

2月2日(日)

実技① Naughty vs 薩摩ぼっけもん

【前半】 CC (堤)、U1 (岩下)、U2 (勇)

CCとして、全体を把握しながら審判をおこなった。勇さんの動きがぎこちないので、動き方などについてアドバイスを行った。ゲームは、淡々と進んでいく中で、ローテーションがうまくいかないときがあったので、もっとゲーム中に声を掛け合うべきでした。選手が転倒した原因がわからず、的確な笛を鳴らすことができなかったため、今後は原因を確認をしていきたいと思っております。

実技③ 薩摩ぼっけもん vs 福岡ライジングゼファー

【後半】 CC (堤)、U1 (川邊)、U2 (勇)

前の試合の反省を元に試合に望んだ。クルーの連携は、よくなりローテーションも動きがよくなった。全体的にプライマリーの現象を的確にとらえ、観客にわかりやすいコールを行っていくことが大切だと感じた。そのためには、よいポジションを取り、アングルを考えて判断を下していきたいと思っております。

講習会を終えての感想と今後の抱負等

今回の講習会を受講して、ルールや接触の原則について、まだ理解が足りないところがあることに気づかされました。講義ではわかっているが、実技になると見落としが出てくるのが課題です。今後も技能の向上に向けて努力したいと思います。

そして、九州ブロックの審判長として、今年の鹿児島県、2023年の佐賀県そして2026年の宮崎県の国体の成功を目指して、審判育成に尽力したいと思います。

最後に今回の講習会を開催するにあたって、ご多忙の中、遠く鹿児島までお越しいただいた講師の門川様、講師派遣に際して尽力いただきました菅野部長、強化委員会の加藤様、実技講習に協力いただいたチーム関係の皆様へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

大会日程、スケジュールについては同様のため省略致します。

報告事項（講義の内容、講習会形式等）

2月1日（土）

【講義①】 接触の原則

車いすを上から見ると円に近く、円錐のようなもの。

→接触するのはごく一部で点で当たる。床から10～15 cm以内

接触する部分(POC:point of contact)：車いすの接触する部分

車いす接触の基本原則

Path：タイヤの幅じゃなくシートの幅。車いすの幅とパスコースは違う

正当なD F

① コンバージングの状況（進路の重なり）

1. ボールを持っているプレイヤーの防御

- ・相手の進路をカバーする

相手の進路に車いすを置く・塞ぐこと

進路のカバーをするために後退してもよい

カバーをして通り過ぎてよい

鈍角の場合、カバーをしても止まらないといけない。カバーをしても止まらなければ正面衝突と同様。

- ・相手に避けられるだけの時間と距離を与える

車いす 1 台分、スピードが速ければ 2 台分必要。ブレーキングエリア：最大 2 台分

カバーをしなくても 2 台分以上与えていればOK。

2. ボールを持っていないプレイヤーの防御

- ・相手より先にその場所に位置する。

- ・トリッピングは別。パスをカバーするか時間と距離を与えなければいけない

- ・どちらが先に着いたか→バンパーではなくハンドリムを見る。

⇒同じ接触でもボールハンドラーかどうかで判定は変わる。

② クロッシング・ザ・パス（進路の交わり）

動いているプレイヤーは、ボールを持っていても持っていないでも

(1)大輪の車軸が相手の車いすのフットレストよりも前に出るまでは方向を変えてはならない

(2)進路を横断しようとするプレイヤーは相手に接触を避けるための時間と距離を与えなければならない

⇒正当に相手の進路を横断したプレイヤーはその相手の進路をカバーしなくてもよい

【講義②】 テーマ：基本を大切に！！

IOT

- ①ステイショナリー&ディスタンス 判定の時は静止して適度な距離感を
- ②レフェリー・ディフェンス DFを中心に見る。OFを見るとボール中心になる
- ③45度とオープンアングル アウトサイドイン
- ④ステイ・ウィズ・ザ・プレイ プレイ全体を最後まで見る
- ⑤コール・ザ・オヴィアス 明らかなもの、特に「インパクト」のあるものに「逃げず」に判定をくだす。

ポジショニング

①オリジナル・ポジション

L : 45度アウトサイドイン、オープンアングル、レフェリー・ディフェンス

C : サイドラインと平行、オープンアングル、3Pラインの曲線と直線のところ、ハイセンターとローセンター使い分け

T:45度アウトサイドイン、オープンアングル、レフェリー・ディフェンス、ビッグピクチャー大事だが高くなりすぎない

②ローテーション スプリットラインを越えてボールがCサイドにある。

L クローズダウンに。ボールがポーズしたらスタートローテーション。テンポよく歩く
スキャン・ザ・ペイント。アクティブなマッチアップなければ次のマッチアップを見る

T ただちにCポジションに

C まずはステイ。Lが歩いている間はそのままだプレイを見守る。

Lがオリジナルポジションに来たらTのオリジナルポジションに。

Lのオリジナルポジションに位置する際に考えること：ボールキャリアがセンターラインをどの位置で越えたか

- ・Cサイド→直線クローズダウンに
- ・Lサイド→オリジナルポジションに
- ・チューブ→考える

ティーアップ DF : L・Cはいち早くオリジナルポジションに

③トランジションへの対応

プレス DF

Cはどちらとボクシング・インするのか→多数決の原則。ボールのポジションは原則考慮する必要はない

TとCで3対3を見る場合、Lは先の2対2を責任もって見る

Tはバックピックが解消した時にフロントコートに入るタイミングが遅くなるとLがローテーションできない

【講義③】

良い審判：「頭」「足」「心」「目」が揃っている

頭 = 知識

バスケットの理解、プレイ・技術の理解、変更点を含めたルールの理解、ゲームに対する感性、
チームの状況（どっちが強いのか、チームの勢いなど）

足 = 体力・コンディショニング

一試合走り通せる体力（体力がないと集中力低下）、走り方（バックステップはダメ）

カッコいいスタイル・走り方・歩き方・服装→信頼感に繋がる。ダラダラしない

心 = マインド

自信に基づいたプレッシャーに負けない強い意志

平等性、協調性、友好性 → コーチを無視 ×

自分をコントロールできる精神的な安定性

審判力を高める向上心、ユーモアな心

目 = 技術

目から色んな情報が入る。見た情報を処理する。見るところをコントロールできる。

何を見るか観察力、レフェリーDF → 自分のプライマリで常にアクティブなプレイがどこか

視野の取り方を工夫 → スペースを見に行かない（ある程度は見ないといけないが・・・）

接触は1か所だけ。

審判としての視野はどこにあるか → コート上で視野が狭くなったりアジャストできないと判定できない。

視野を広く → 後ろに下がることじゃない。プレイがどこから始まったかを見る

TO やベンチに気を配る（情報源として） → ファウルの数とかコーチが何を言ってるか

上の4つを鍛える！でも経験値足りないと引き出しが少ないから経験も大事。

3PO の再確認

L → プレイヤーより先に行く。ショットの時は動かない。

コートヴァイオレーションを見る。

押されて出た → ファウル。出ていいわけじゃない。ヴァイオレーションにグレイはない

T → ショットクロック・メインタイマーの管理（マジックタイム） ボールを目で追う前にDFを見る

C → 水平に見る。多数決の原則。基本的にボールがないところ → ローポストの触れ合い

2PO の時のボクシング・イン

大事なこと

・判定の一貫性

同じ現象でもプレッシャーがある時とない時では状況が違う。

・ゲームのテンポとリズム 審判がゲームのテンポとリズムを壊してはいけない。

軽いファウルを吹かない。 → 吹いた時に限ってインパクトのあるものを吹けない。

マージナルなファウルの見極め

リズムを気にする → TO の管理（スローイン時にブザーを鳴らすなど）、ファウルを吹いた後に時間をかけない、

タイムアウト後の再開が遅い、ゲームの始め方、スローイン・フリースローを渡すタイミング、

・動くことが大事

最後の一步が大事。最後まで見届けられる位置。そこで止まれるか。

チェックアウト・チェックイン

無駄な動きじゃなく必要な動き。目的をもった動きを。動くことが目的じゃない。

・ブロッキング or チャージングの判定

良い位置取り

プレイヤーの仕返しのファウル → 目を離さない

軽いファウルを吹かない。インパクトのあるものは吹く。

- ・8 sec、バックパスが成立したかどうか Cとして大事。
- ・24sec、14sec になるか把握する。
- ・コーチのテクニカルファウル→自信がないと吹けない
- ・目標を設定する。どんな審判になりたいかイメージをもつ
- ・常にコートに立つ準備をする。審判できる喜びをもってコートに立つ
- ・相手審判とのコミュニケーションを。CC は U1・U2 が落ち込んだら持ち直させる。CC が吹き込まない。
- ・信頼させるために努力する
- ・判定基準を早く確立する。
- ・集中力を維持する。適度な緊張感をもって
- ・良い審判→細かいところまで気を遣い大胆に判定する。 悪い審判→判定が大雑把。
- ・審査の大項目 4 つ 各 5 点満点で計 20 点満点
ゲームコントロール、メカニクス、ガイドライン、プレゼンテーション
プレゼンテーション大事！！

ルールの理解

2月2日(日)

【実技①】

- ・転倒が起こった時に止めるタイミング
そのプレイヤーが自分ですぐに起き上がるかどうかまで把握する。
すぐに止めなければいけないこともある。
- ・転倒時に何が起こったか
- ・軽いものを鳴らして大事な場面で鳴らせていない
- ・Cで低すぎて、OFとDFが重なって判定できないことがあった。
→1歩2歩動くだけで見やすくなることもあったが、一貫してできなかった。
- ・視野を広くとろうとして後ろに下がらないように意識はした。
- ・レフェリーディフェンスを意識しても、意識をしないとOF中心に戻ってしまう。
- ・Lのクローズダウンを意識しても、ローテーションをしないと決めてオリジナルポジションに戻ったらやっぱりローテーションをしとけばよかったと思うことが多い。

講習会を終えての感想と今後の抱負等

今回、講義を通して大体の理解はできていると感じたが、理解不足のところがあった。また、映像をみても瞬時に判断できず見返してから判断ができることがあった。ゆっくりの状況でも車いす同士の動きを理解することがまずは必要だと感じた。そこからスピードのある動きや様々な状況での応用に繋げていきたい。「頭」「足」「心」「目」を揃えるために、今後さらにルールやプレイの理解等を深めていきたい。実技では講義で聞いたことを実践してみたが、以前の課題でもある「決断力」に欠ける部分があった。しかし、決断力よりも一連のプレイを捉えられておらず判定できていなかった。良い位置取りをし、良い判定ができるよう工夫していきたい。今後も審判技術向上のために努力を続けていきたい。

今回、ご指導頂いた IR の門川氏をはじめ、関係者の皆さまに感謝致します。

大会日程、スケジュールについては同様のため省略致します。

報告事項（講義の内容、講習会形式等）

2月1日（土）

【講義①】

車椅子を上から見てみると…「円錐」 → 接触する可能性があるが、ごく一部しか接触しない



↑ 丸いものの接触は「点」である(ポイント・オブ・コンタクト)

正当なディフェンスには大きく2つの状況がある

1 コンバージングの状況 : 進路の重なり

(1) ボールを持っているプレイヤーに対する防御

① 相手の進路 (PATH) をカバーする

進路をカバーするとは、車椅子を「置き」、「ふさぐ」ことである。

後方に下がりカバーすることは正当である。

一旦カバーしたら、進路を通り過ぎても良い。(接触したらオフェンスに責任がある)

② 相手に避けられるだけの時間と距離を与える

車椅子 1 台分、速ければ車椅子 2 台分

(2) ボールを持っていないプレイヤーに対する防御

先に到着したのはどちら? ハンドリムの位置で判断する

【講義②】

2 クロッシング・ザ・パスの状況 : 進路の横断

アクセルが相手のバンパーより前に出たら横断できる

ノーコール? → ファウル? → オフェンス? or ディフェンス?

IOT

① ステーショナリ&ディスタンス (静止した状態から適度な距離を持って判定)

② レフリー・ディフェンス (ディフェンスをレフリーしなさい)

③ 45度とオープンアングル

④ ステイ・ウィズ・ザ・プレイ (プレイ全体を最後まで見る)

⑤ コール・ザ・オヴィアス (明らかなもの、特に「インパクト」のあるものを逃がずに判定を下す)

オリジナルポジション, ローテーション, トランジション, ダブルホイッスル

【講義③】

頭（知識）・・・ルールや技術 ゲームに対する感性 どっちが強い？

足（体力）・・・コンディショニング 体力ないと集中力が×

目（技術）・・・情報処理 ボールだけ視野に× アクティブなところに目〇 何を見るか→ ディフェンスを見る

心（プレッシャーに負けない、平等性、協調性、友好性、向上心、ユーモア）

判定の一貫性、ゲームのテンポとリズム、 良い審判は細かいところまで気を遣う

2月2日（日）

【実技②】 Naughty vs 薩摩ぼっけもん

（門川氏より）

リードでクローズアウトをすること。クローズアウトしないで、迷いながらローテーションしたらシュートを打たれてしまうことがあった。同じリードで自分のプライマリーを鳴らせずに、中途半端に腕を上げかけて下したケースがあったので、こういうのは見苦しい。

（自分で振り返って）

映像で確認したが、ご指摘の通りであった。決断力のなさが中途半端なジャッジになっていた。Naughtyのポイントゲッターが狭いエリアに入り込んで行って、ディフェンスが転倒するような強引なプレイに対して、講義で学んだことを生かしてクロッシング・ザ・パスの判定ができるようにしたい。映像確認では、アクセルが相手のバンパーより前に出ていなかった。また、別なケースでセンターの位置取りがもう少し高かったら見えていたと思われるプレイがあったので、クロスステップを使うなどして見に行くようにしたい。

【実技④】 福岡ライジングゼファー vs 鹿児島

（自分で振り返って）

自分のエリア外のプレイを鳴らしたケースがいくつかあって気になっていたが、映像で確認してみたところ、鳴らすべきプレイではあったので結果オーライではあったが、もっとクレーと協力しなければならないと感じた。講義を受ける前に比べると、だいぶディフェンスを見て判定するようにはなったかなと自分では感じる事ができた。

講習会を終えての感想と今後の抱負等

1日目の講義で学んだことを生かして、2日目の実技を行うことができた。何を見なければならぬのか、見たことをどのように判定するのか、当たり前なことではあるがこれまでとは違う意識でコートに立つことができた。しかし、まだまだルールや接触の原則についての理解不足は否めず、自信をもってコートに立てていないことは明らかである。もっと勉強して経験値を上げていかなければならないということを痛感した。

今回は、ご多用中にもかかわらず遠路はるばる鹿児島までお越しいただき、ご教示いただいた門川氏に感謝し、必ず恩返しできるように今後ますます精進してまいります。

令和元年度第3回鹿児島県車いすバスケットボール審判講習会 報告書

九州ブロック 氏名 川邊 静香

大会日程、スケジュールについては同様のため省略致します。

報告事項（講義の内容、講習会形式等）

2月1日（土）

【講義】

門川氏より、接触の原則の説明、ディフェンスを見ることで接触が悪いのか大丈夫であったのかを見極め、I O Tが重要なポイントとなる。

ローテーションについて・リード、トレイル、センターの位置の確認、気を付けることの確認。

基本的にはダブルホイッスルはない。ダブルホイッスルにならないためには、お互いのプライマリーの意識。

最後のまとめとして、審判員として4つ揃わないといけない。

- ① 頭→知識、ルール、プレーの知識。
- ② 足→体力、コンディショニング、1試合走れるか？走り方の意識、体力がないと集中力が無くなる。スタイル、止まり方、服装、上方、信頼を貰えるように。
- ③ 心→マインド、自信、メンタル、プレッシャーに負けない。
- ④ 目→技術、ボールだけ見るわけではない。観察力、レフリーディフェンス。アクティブのプレーはどれか。経験も大事。
どこからプレーが始まるのか、全体が見えるように。
T O・ベンチにも気を配る。
判定は常に同じように。一貫性を。
良い審判員→目標をもって。常にコートに立つ準備を。審判に立てる喜びを。

2月2日（日）

【実技講習】

実技① 福岡ライジングゼファーV S Naughty 前半（CC 初瀬 U1 川邊 U2 鳥羽瀬）

1日目にお話しいただいた接触の原則、審判員としての在り方を自分の中で考えながらの前半をレフリーした。初めに、一つの現象を取り上げたのだが、実際には接触の原則の理解が中途半端で、出来ておらず、前半が終わるまで内心違和感が残ったままであった。終了後の反省会の助言の中で動画を見直し、進路をカバーをしていた後のディフェンスが動いていることは問題なく、そこにぶつかっていったオフェンスの責任になる。取り上げたものは問題なかったのだが、自分の接触の原則の理解不足による自信のないことからおきる不安であった。

自分のプライマリーであった場面の1 o n 1も昨日の動画を意識しすぎて、判断に迷いが出てしまい鳴らなかつたケース。

その他リードのローテーションのはじまりが遅い。タイミングをもっと早く、センターの位置が低いと助言を頂いた。

実技③ 薩摩ぼっけもん VS 福岡ライジングゼファー 後半 (CC 堤 U1 川邊 U2 勇)

一試合目の反省を活かしてローテーションの動きを工夫した。ローテーションのタイミングが変わったことで動きながらの判定が無かった。

福岡のハイポインターの動き、車いすの操作が良くないのか、悪いことをしていないか。そこをもっと明確に判断するためには、レフリーディフェンスをもっと意識しなければいけないと感じた。

U2 には未資格の勇さんであったのだが、もう少し彼女を引っ張っていけるような力と気遣える余裕が自分にあればよかったと感じた。CC メンタリティーの部分であると思うのでしっかり周りにも配慮できるようにしたい。

実技③福岡ライジングゼファーVS 鹿児島 後半 (CC 林 U1 岩下 U2川邊)

プレカンにて最後の実技なのでローテーションのタイミングの意識をあげた。プライマリーの一か所にしか重点がなかったのでそこも意識してみしてほしい。と林さんに助言をもらっていたので、そこも意識をした。

試合中、転倒のケースがあり、どのプレーが危険なのか、どのケースだとレフリータイムになるのか、なぜ転倒が起きてしまったのか？

プレーのはじまりから終わりまでを見ていないと判定も難しい。

ローテーションはプレイヤーが何をしようとしているのか (シュートを狙っているのか、他のプレーなのか) を予測することでローテーションをする、しない。と判断する。

講習会を終えての感想と今後の抱負等

今回二日間にわたり接触の原則、基本的なメカニクス、レフリーとしての心構え、実技で実際に見て、感じて、判定をする。審判員としての在り方を教えていただきました。実技に関しては、動画を踏まえながら反省をして頂き、自分の判定が自信につながることとなりました。しかしながら、まだまだ選手に納得させる術であるか？となれば不安が残ります。選手に聞かれたときに、自信をもって取り上げたもの、鳴らさなかったものを説明が出来るか？・・・できないと思います。そのためには日々の競技規則、接触の原則の熟読・理解は必要不可欠となります。

そしてCCメンタリティーの部分の強化ももっとできればと思います。

今回この講習会に参加にあたり、門川様に講師で参加していただき、実技の際は一緒におなじ場所・目線から見ただき、動いていただき、本当に感謝しています。

鹿児島国体が中心となっていますがこの機会を大切にし国体終了後も自分のレフリーとしての財産となるよう、今後とも努力し続けてオンザコートで感謝を表現していければと思います。そしてまた上の目標を掲げて、鹿児島県、九州のレフリーメンバーと頑張っていきます。

皆様、門川様、有難うございました。

令和元年度第3回鹿児島県車いすバスケットボール審判講習会 報告書

九州ブロック 氏名 坂元 孝浩

大会日程、スケジュールについては同様のため省略致します。

報告事項（講義の内容、講習会形式等）

2月1日（土）

都合により、不参加

2月2日（日）

【実技講習】

ベーシックにこだわると共に、個人の目標である「車椅子の特性の理解」「オールコートでのボクシングインの形成」にトライしました。直近で関東で開催されている「high8」という大会に参加させていただいたばかりでしたので、ゲームレベル的には予想の範囲内の車椅子スキルと九州でよく見るメンバー同士の試合でしたので、キーマンなどの把握はクルーで行いました。表示物（メインタイマー・ショットクロック）がオフィシャルテーブルにしかない状況でしたので、クロックの把握については通常とは違ったので、その打ち合わせは事前に行いました。ゲームとしては特に難しいケースは起きませんでした。視野の取り方、センターレフリーとしての動きについては少し手応えを感じました。講師からは「難しいケースは無かったが、今の調子で色んな大会を吹いて研鑽してください」と総評をいただきました。

講習会を終えての感想と今後の抱負等

講義に参加できなかったのが残念でしたが、前週の関東の大会等での学びが活かされた講習会実技研修となりました。個人的にさらにレベルの高いゲーム、目の前で現象が起きても、しっかりと始まりから終わりまで確認してコール、ノーコール、マージナルの判定ができるようにしていきたいです。今回もう1つ体感し実感できたのが、パラレルなのかコンバージングなのかの判定の始まりを見極めることができました。レベルが上がればさらに早い展開になると思いますが、その部分に気づけたことが一番の手応えとなりました。バックピック時のボクシングインの形成についても少しずつ実践できていたのでそこはさらにポジションアジャストしていけたらと考えます。今後はさらに始まりから終わりまで、トスアップからゲーム終了までクルーと協力して集中力を切らすことなくやり終えることができるようになりたいと考えて研鑽していきます。

講師としてわざわざ鹿児島まで来ていただきアドバイス頂いた門川講師に感謝致します。

令和元年度第3回鹿児島県車いすバスケットボール審判講習会 報告書

九州ブロック 氏名 鈴木 恵美

大会日程、スケジュールについては同様のため省略致します。

報告事項（講義の内容、講習会形式等）

2月1日（土）

接触の原則

車椅子を上から見ると「円」や「円錐」 → 接触する部分はおく一部、面ではなく点

基本原則

シート両側からプレイヤーが動いてる方向に引いた平行線 進路（PATH）

正当なディフェンスとは

1 コンバージェン（進路の重なり）

2 クロッシング・ザ・パス（進路の交わり）

（1）ボールを持っているプレイヤー防御

・相手の PATH をカバー

・避けられるだけの時間と距離

（2）ボールを持っていないプレイヤー防御 ブレーキングエリア（最大2車分）

・先にその場所に位置する

※ 1車以上の間隔がない場合「先に到着の原則」は適用されない

先にいれば何をしてもいいわけではない

重要

ボールハンドラーか、そうでないか

講習会のテーマ

・基本を大切に

ポジショニング

①オリジナルポジション

②ローテーション

③トランジション⇔プレスディフェンスの対応

C（はどちらとボクシングイン？多数決の法則（車椅子）

判定

①接触の原則

②ガイドライン

IOT

- ①ステーションナリ&ディスタンス
- ②レフリー・ディフェンス
- ③45度とオープンアングル
- ④ステイ・ウィズ・ザ・プレイ（プレイ全体を最後まで見る）
- ⑤コール・ザ・オヴィアス

ダブルホイッスル

※ブラージを防ぐ

良い審判とは

- (1) 頭 ⇨ 知識・ルール
- (2) 足 ⇨ 体力・スタイル
- (3) 心 ⇨ マインド・強い意志・自信・平等性・協調性・友好性・安定性・ユーモアな心
- (4) 目 ⇨ 技術・情報・観察力

アクティブプレーはどこか？ TO やベンチに気を配る

同じプレーでも状況や判定は変わる

プレイヤーにとってテンポとリズムは大事

審判が変えてはいけない

判定に一貫性がないことは絶対にダメ

良い審判になるために・・・

- (1) 目標をもつ
- (2) 常にコートに立つ準備
- (3) 3人のコミュニケーション
- (4) 信頼されるために努力する
- (5) 集中力を持続
- (6) 細かいところまで気を配る

2月2日（日）

【実技③】 薩摩ぼっけもん vs 福岡ライジングゼファー

（門川氏より）

クローズダウンポジションへの移動は良いが、その後のローテーションするタイミングが少し遅い。ボールを持っているプレイヤーがポーズした瞬間にローテーションの判断をする事。

OOBを吹いた時に、クローから投げ入れかどうか、ショットクロックが継続かリセットなのか確認された時、どちらのボールかだけを判定するのではなく、どのような状態での OOB だったのかを声を使ったりしながら判定することにより、クローでの共有、次のプレー再開への準備に繋がる。

(自分で振り返って)

ローテーションのタイミングが遅いのはなぜか？まだ一瞬、躊躇してしまっているように思いました。ポイントになるプレイヤーやチームの特徴をもっと捉え、ローテーションの判断をし、トライしていきたいと思います。

OOB など、ライン側などの際どい場面で判定する時に、ただ笛を吹くだけになっていたのも、もっと声などを使って判定していきたいと思いました。それがクルー・TO やベンチ・プレイヤーとのコミュニケーションに繋がると改めて感じたゲームでした。

【実技④】 福岡ライジングゼファー vs 鹿児島

(門川氏より)

プレイヤーが転倒した時の笛のタイミングとは？

速攻でセンターポジションからファールを吹いた場所はどうだったか。一緒に走りながら判定をしている。一つ前で止まってみる事により、より良くスペースを捉える事ができる。それが判定へと繋がる。(笛を吹く・吹かない)

C～C への移動の際、少し縦に揺れている。縦に揺れると見る視点が変わってくるので、クロスステップなどを使いながら並行に移動する。

(自分で振り返って)

サークル外での転倒時の止めるタイミングに悩み、今回、ビデオなどで振り返った時、転倒したプレイヤーだけに目がいき全体のプレー把握が遅い為、止めるタイミングが遅くなってしまったように感じました。

まずは自分のエリアをしっかりと捉え、色々な事を判定するためには、全体の把握がとても必要だと思いました。

講習会を終えての感想と今後の抱負等

今回の講習会を受講して、改めて車椅子のルールや接触の原則について学ぶ事が出来ました。

しかし、まだルールの理解不足がオンザコートでの判定・判断が出来ない事に繋がっていると感じました。

今後は指摘されたことや、課題をクリアしていき、審判技術の向上に努めていきたいです。

まだまだレフリーとして足りないところが沢山ありますが、目前に迫った全国大会に向けて、一つ一つの事をしっかりと自分のものにできるよう頑張っていきたいです。

最後に今回の講習会を開催してくださいました三木審判長をはじめ車椅子連盟の方々、ご多忙の中、遠く鹿児島の地までお越しいただいた講師の門川様、実技講習に協力いただいたチーム関係の皆様へ心より感謝申し上げます。

皆様のご協力のお陰で実りある講習会となりました。本当にありがとうございました。

大会日程、スケジュールについては同様のため省略致します。

報告事項（講義の内容、講習会形式等）

2月1日（土）

【講義①】 接触の原則

車椅子を上から見ると「円」や「円錐」 → 接触する部分はおく一部、面ではなく点

接触する部分（POC）：車椅子のどこどこが接触しているかを知ることが重要

車椅子接触の基本原則 進路の幅 → シートの両側から進む方向（PATH）、サイドレールの幅に等しい

正当なディフェンスには大きく2つの状況がある

1 コンバージングの状況：進路の重なり

(1) ボールを持っているプレイヤーに対する防御

① 相手の進路（PATH）をカバーする

進路をカバーするとは、車椅子を「置き」、「ふさぐ」ことである。

② 相手に避けられるだけの時間と距離を与える

ゆっくりであれば車椅子1車分、速ければ車椅子2車分、どんなに速くても2車分以上にはならない

(2) ボールを持っていないプレイヤーに対する防御

相手より先にその場所に着けば良い、どちらが先に着いたかは、ハンドリムの前後で判断する

ボールキャリアかどうかで、触れ合いの責任が変わるケースがあるので注意が必要

2 クロッシング・ザ・パスの状況：進路の横断（交わり）

進路を横断するディフェンスの場合、ボールをコントロールしているかどうかは関係ない

アクセルが相手のバンパーより前に出たか？

【講義②】 メカニクス

IOT

① ステーションリ&ディスタンス：止まって笛を吹く、それまでに動く

② レフリー・ディフェンス：ディフェンスを中心に見る（フォーカス）

③ 45度とオープンアングル：アウトサイドインの見方

④ ステイ・ウィズ・ザ・プレイ：プレイ全体を最後まで見る

⑤ コール・ザ・オヴィアス：明らかなもの、「インパクト」のあるものを「逃げずに」判定

ポジショニング

① オリジナルポジション

L : 45度オープンアングル、レフリーディフェンス、アウトサイドイン

C : 身体の向きは平行、ハイセンター、ローセンターの使い分け、オープンアングル

T : 45度オープンアングル、レフリーディフェンス、アウトサイドイン、ビッグピックチャー（高くなりすぎない）

② ローテーション

ボールがスプリットラインを超えて逆サイドへ移動 → Lはクローズダウンポジションへ移動

逆サイドでボールがポーズ → ローテーション開始 スキャンザペイント、ネクストマッチアップ

Tは直ちにローテーション開始、Lの背中を守る、ボールプレイをチェックアウト

Cはボールプレイにチェックイン、ステイウィズザプレイ、ワンプレイ終えてからTへ移動

③ トランジションへの対応

リードのオリジナルポジションに入る時に考えること

ボールがセンターサイドを進んでくる場合 → 直接クローズダウンポジションへ

ボールがリードサイドを進んでくる場合 → オリジナルポジションへ

ボールがチューブの中を進んでくる場合 → どちらに位置取るか考える。。。

Tカップディフェンスに対しては、L、Cがいち早くオリジナルポジションに位置取る

プレスディフェンスへの対応 → センターはT、Lどちらとボクシングインするか（多数決の原理）

ボールのポジションは「原則」考慮する必要はない

バックピックがある時 → Tはマッチアップに遠すぎるとフロントコートに入るのが遅れるので注意する

Cは3POではなく、Lとの2POを選択する、オリジナルポジションに早くいきすぎない

【講義③】 良い審判とは

「頭」、「足」、「心」、「目」 → 4つ揃って良い審判となれる

「頭」=知識

「足」=体力

「心」=自信に基づいたプレッシャーに負けない強い意志

「目」=情報を処理する技術 見るところをコントロールできる

3POの再確認

リード : 選手より先に行く プレイヤーがどう来るのか早く読み取る シュートの時は動かず吹く

ショットのボールを追わない エンドラインのコートバイオレーションに注意、押されて出たケースなど

トレイル : クロック、ショットクロックの管理、マジックタイム ショットやパス、ボールを追わずにディフェンスを見る

センター : 一番要として重要なレフリー（スロトル） ハーフコートのセンターの見方 オフボールのプレイ

オールコートは多数決の原則 2PO時のボクシングイン

判定の一貫性

ゲームのテンポとリズム

良い審判とは

目標を設定する イメージを持つ 常にコートに立つ準備をする コートに立てる喜び

相手審判に良いコミュニケーションをとる 信頼される努力を惜しまない

判定基準を早目に確立する 集中力を持つ

「良い審判は細かいところまで気を払い、大胆に取り上げる」

評価の4項目 4項目×5点 = 20点満点

ゲームコントロール

メカニクス

ガイドライン・プレイコーリング

◎プレゼンテーション

C級：7点、B級：11点 → 4項目でスタンダード（3点）を目指す

2月2日（日）

【実技①】 福岡ライジングゼファー vs Naughty

（門川氏より）

センターの位置取りが常に低いと指摘を受けた。また、姿勢で右肩が下がっている、体はオープンアングルの形でも首だけ動かしてプレイを見ていると指摘を受けた。

次のゲームで改善を意識しようと思いました。

【実技②】 Naughty vs 薩摩ぼっけもん

（門川氏より）

1試合目での指摘事項は意識して対応できた。

現象でバックパスを吹いたケースがありました。しかし、確認の結果、バックパスには該当しないケースでした。自分のルールの理解不足でした。

【実技③】 薩摩ぼっけもん vs 福岡ライジングゼファー

（門川氏より）

実技①での指摘事項は今回も意識して対応できた。

自分がTのポジションでFOULを鳴らすべきケースがピックアップされた。映像を確認するとアングルが悪く、また、複数のプレイヤーがいる状況で把握ができていなかったと反省しました。次回から、ボールマントスクリーナー、それらのディフェンスを把握し、プレイを予測することで良いアングルがとれるように対応したいと思いました。

講習会を終えての感想と今後の抱負等

3POのメカニクスに関しては問題なく対応できたが、やはり、ルールの理解や車椅子バスケット独特の現象に対応できていないと痛感しました。本大会まで1年を切っていますので、この講習会をきっかけに再度、取り組み方を改めて、まずはB級審査に向けて研鑽したいと感じました。

今回は貴重な体験をさせて頂き、誠に有難う御座いました。

大会日程、スケジュールについては同様のため省略致します。

報告事項（講義の内容、講習会形式等）	
<p>2月1日 講義</p> <p>■接触の原則</p> <p>車いすの形状・・・上から見ると円に近い形(円錐に近い) →接触する部分のごく一部、見るべき場所は限られている</p> <p>※判定の為にどこを見れば効果的か</p> <p>・コンバージョンとクッキングザパス</p> <p>正当な DF は大きく分けて 2 つ</p>	
<p>★OF のアクションに対しての DF のリアクションにフォーカス → 見るのは DF 中心</p>	
<p>■メカニクス</p> <p>I o t</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ステーションリ&ディスタンス → コールの瞬間はステイ。 ② レフェリーディフェンス → DF は OF の動きに対して動く。 ③ 45度とオープンアングル ④ Stay with the play → プレイ全体を最後まで見る ⑤ コールザオヴィアス → 明らかなもの(インパクトのあるものを逃げずに判定) 	
<p>■審判が鍛えるべき4つのポイント</p> <p>★頭</p> <p>バスケット(プレイや技術)に関する知識、ルールや車いすの特性に関する理解</p> <p>★足</p> <p>1 試合を走りとおせる体力やコンディションが必要</p> <p>体力がある → 集中力の持続に繋がる</p> <p>走り方、スタイルへのこだわり → スマートに行動/走ることで、信頼感を得られる</p>	

★ 目

視覚から入ってくる情報に対して、性格に処理をする

見る場所のコントロール

何を見るか→とにかく DF を見る、視野の取り方を工夫する

審判としての視野は狭くなりがち → 観客としての視点/感覚を持ってコートに立つ

★心

自身に基づいた、プレッシャーに負けない意志、毅然とした態度

平等性 協調性 友好性

常に向上心を持ち続ける

■ 判定の一貫性

プレッシャーが強いところこそきちんとみる

現象が一緒 = 判定が一緒ではない

■ 良い審判であるために

良い位置にいる プレイから目を離さないように

笛が鳴らないと焦って、つまらないファールなどを取り上げてゲームに参加しない。

ルールのきちんとした理解 (バイオレーションの成立)

目的・目標、イメージをもつ。

信頼される努力をする

他クルーとのコミュニケーションをしっかりとる、3 人の連携が大事。

良い審判は「細かく考えて 大胆に 勇気を持って コールする」

★常にコートに立つ準備をする。審判ができる喜びを感じて。←良い笛に繋がる

2月2日 実技講習

都合により不参加

講習会を終えての感想と今後の抱負等

今回講義のみ参加させていただき、基本的なところから、審判の心構えまでお話しただいて大変勉強になったと感じた。

接触の原則やメカニクス等、何度も聞いてわかったように思っていたが今回の講義でより一層クリアになったと思う。

また最後に、良い審判であるために意識するポイントをお話しいただき、これから先審判を続けていく中で、技術面はもちろんのこと、行動面でも良い審判であれるよう今回学んだ事を日々の生活、審判活動に活かしていきたいと思う。

令和元年度第3回鹿児島県車いすバスケットボール審判講習会 報告書

九州ブロック 氏名 勇 香保

大会日程、スケジュールについては同様のため省略致します。

報告事項（講義の内容、講習会形式等）

2月1日（土）

【講義】

接触の原則

正当なディフェンス

コンバージング

進路をカバーする

時間と距離を与える

クロッシング・ザ・パス

ポジショニング

① オリジナルポジション

② ローテーション

③ トランジション

※ ダブルホイッスル、ブレイクを防ぐ

常にコートに立つ準備を

相手審判とのコミュニケーションをしっかりとる

判定基準は速く簡潔に伝える

良い審判になるため

頭（知識）、足（体力）、心（意思）、目（技術）

情報をフル活用する

2月2日（日）

【実技講習】

自分のプライマリーを理解する事、特にセンターポジション。

笛を鳴らしたら最後までプレイを見届けて判定する。

自分に自信を持つ。慌てる必要はない。

動きながらの判定は良くないので気になる所は Stay して体ごと向ける。

リードは逆サイドに渡るタイミングを見る。

ボールにつられていたが多かったので自分の責任範囲をしっかりと理解した上で判定する。

センター、リード、トレイル、それぞれの位置取りをしっかりとる。

講習会を終えての感想と今後の抱負等

講義で学んだことを実技で実践しようと思ってもなかなか出来ませんでした。基本が3P Oなので、まずそこが完璧に出来るようにしたいです。ジャッジや判定に迷いがあるので、もっと自分に自信を持って思いっきり笛鳴らせたいなと思います。接触の原則も、実践では接触のパターンが沢山あるので、不当なディフェンスなのか、チャージングなのか、判定基準がまだ分からなかったです。まずは基礎基本をしっかり覚えてC級を取ってから上を目指していきたいです。

知識や技術はまだですが、これから勉強頑張って車椅子審判員として全国で活躍出来るようになりたいです。

【講習会の状況】

